

国立歴史民俗博物館共同研究「番方旗本家に関する総合的研究
—大番士・儒者杉原家文書を中心に—」シンポジウム

旗本杉原家の世界一大番士・儒者・屋敷・絵画—

開催趣旨

本シンポジウムは、旗本杉原家に伝来した 2000 点以上にもおよぶ資料「杉原家文書」についての 3 年間の共同研究の成果をいくつかの切り口から紹介し、江戸時代を生きた旗本家の複合的な視点から検討するとともに、旗本研究や旗本の資料環境のこれからを考えることを目指すものである。

杉原家文書（国立歴史民俗博物館所蔵幕府儒学者杉原平助関係史料）は、江戸幕府旗本杉原家に伝来した史料群である。史料群名に「儒学者」とあるが、杉原家は江戸開幕以来、代々大番士を勤めていた。杉原家文書・旗本杉原家の特徴は(1)番方旗本として類例のない大規模史料群であること、(2)旗本の中で最も人数の多い階層（200 俵）の旗本家であること、(3)大番士の日常業務や生活に関わる日記類が多数残されていること、(4)昌平黌儒者となって幕末外交に関わる杉原平助を輩出し、平助の学問や職務に関わる史料が多く残されていること、(5)明治維新时期・維新後の史料が残されており近代士族の研究が可能であること、(6)初等教育や絵画、屋敷に関する史料など、旗本家を復元的に研究する史料が残されていることである。アイテム数 2000 点以上、目録件数 5000 件以上に及ぶ杉原家文書は、明治維新にともなう混乱や東京の戦災によって残存状況の厳しい旗本家史料にあって、特筆すべき史料といえることができる。

本共同研究の目的は、研究資源・文化資源としてこのような価値を持つ杉原家文書を素材に、近世の旗本家について、総合的・復元的に検討することである。共同研究では、以下の 3 つの研究課題を設定した。

- ①旗本・士族杉原「家」の研究：旗本の中核を占める階層である杉原家を素材に、家の継承・屋敷地の活用など、「家」に即した近世初期から明治期までの研究
- ②大番士杉原家の職務に関する研究：大番士の職務に関する史料を中心に、江戸幕府の官僚制・軍団の構成員の日常を復元的に検討し、幕藩官僚制の基礎的研究を行う
- ③儒学者・外交官杉原平助の研究：杉原平助による儒学研究・教育・著述と、儒者・外交官としての職務を検討し、幕末期の対外関係における儒学者の占める位置を明らかにし、併せて、旗本家に残された文化・学術資源を研究する

①③では、杉原家の個性に着目する一方、②では、江戸時代の幕藩官僚制の基本的な仕組みの解明に迫ることを目指した。以上の 3 点を通じて、複合的な視点から、近世～明治期を生きた旗本家を復元的に検討することが、本研究の目的である。

今回のシンポジウムでは、共同研究の成果に基づき、日記や家譜、屋敷絵図や美術資料、儒学関係の資料など、残された史料の魅力から、江戸時代を生きた旗本家の世界を照射したい。

日時

2022 年 2 月 27 日（日） 13 時～16 時 30 分

会場

オンライン（zoom）

プログラム

- 13：00 開会
三野行徳（国立歴史民俗博物館） 趣旨説明
- 13：20 高橋喜子（国立公文書館） 杉原家の当主と由緒書類
- 13：40 高久智広（関西大学） 大番士の二条・大坂在番一旗本杉原家・鈴木家の事例を中心に―
- 14：00 小池駿介（日本銀行金融研究所） 杉原家文書における日次―役職と記録類の作成―
- 14：20 休憩
- 14：30 小川和也（中京大学） 心齋杉原平助の思想―朱子学から清朝考証学へ―
- 14：50 小粥祐子（東京都公文書館） 杉原家の拝領屋敷地と住居変遷
- 15：10 浦木賢治（静嘉堂文庫美術館） 美術史研究の視点から旗本資料の可能性を探る
―「小川破笠筆関羽像」模本、狩野派粉本・絵手本―
- 15：30 休憩
- 15：40 岩淵令治（学習院女子大学） コメント
- 15：55 質疑応答
- 16：20 閉会挨拶 久留島浩（国立歴史民俗博物館）
司会：野本禎司（東北大学）

主催

国立歴史民俗博物館共同研究「番方旗本家に関する総合的研究―大番士・儒者杉原家文書を中心に―」（代表：三野行徳）

申込方法

以下のフォームから、2月25日までにお申し込み下さい。Zoomのリンクは2月26日にお知らせします。

<https://forms.gle/ehoVCieiazFYjVDX7>